

UNIVERSITY CONSORTIUM Kyoto



財団 法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto
URL <http://www.consortium.or.jp>

会 報
2008.1
No.30

P1~2 新春メッセージ

設立15周年、大学コンソーシアム京都の新たな誓い

P3~4 学びの座談会

「学び」と世代の間にあるものは?

P5~8 第5回頑張ってます!京都の大学・短期大学

第2弾 新たな改革へチャレンジ!

P9~10 京カレッジ 2007年度 特別コース

「法然・親鸞が生んだ京の歴史文化」に特別参加!

P11~12 京都学術共同研究機構

季刊アカデミア

P13~14 TOPICS

PROJECT REPORT

P15 Information

近日開催予定の行事・イベント



【聖母女学院短期大学】京都市伏見区深草田谷町1番地

新春 メッセージ 設立15周年 大学コンソーシアム京都の新たな誓い



京都市長

榎本 賴兼

「世界に誇る大学のまち京都」に向かって

新年おめでとうございます。平成20年の新春を迎え、財団法人大学コンソーシアム京都の皆様のますますの御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げます。

京都市長の重責を担わせていただき以来今日まで、私は「市民の皆様との厚い信頼とパートナーシップ」を何よりも大切にして、心から愛する京都のため全力投球して参りました。

全国トップレベルの市政改革を凜とした姿勢で断行する一方で、「京都に住んでいて良かった」と実感していただけるよう、あらゆる分野で政策を着実に進め、京都市基本計画第2次推進プランでお示した171の施策や事業すべてに着手することができました。

このプランでは、活力あふれるまちづくりに向けて、「キャンパスプラザ京都を核とした事業の充実」を掲げ、現在、その取組の一つとして、貴法人の御協力をいただきながら、「京カレッジ」^{みやこ}を実施しております。これは、京都ならではの大学の知の集積を活かし、知識や教養を広げるきっかけとしての「学び」から、大学生と一緒に正規の大学の授業を受講する高度な「学び」までを体験できる、老若男女を問わない幅広い生涯学習のニーズに応えた事業であり、今後とも、一層の充実を図って参りたいと存じます。

また、本市が建設し、貴法人に指定管理者として運営いただいているキャンパスプラザ京都につきましても、学生や市民の皆様に更に広く親しまれますようにと心から願っております。

私は昨秋、「第5回京都学生祭典」に参加致しましたが、既に名物となりました「京炎そでふれ!」に、新たな祭りの象徴となる創作みこしの「京炎みこし」が加わり、学生の創造力とエネルギーの凄さに改めて驚嘆すると同時に、彼らのパワーが京都のまちに常に新鮮な息吹を与えてくれていることを実感致しました。京都市では、引き続き、貴法人はもとより、大学関係者の皆様、産業界の皆様、そして市民の皆様との連携を一層密にし、「世界に誇る『大学のまち京都』」の更なる発展に向け、全力を傾注して参りますので、変わらぬ御支援と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、年頭に当たりまして、財団法人大学コンソーシアム京都のますますの御発展を心から祈念致しまして、私の新年の御挨拶とさせていただきます。

1994(平成6)年の設立以来15年目の記念すべき年を迎えます。大学コンソーシアム京都は、与えられた使命を改めて認識し、産・官・学・地域社会とより一層の連携を深め、学術研究の還元、高等教育の発展、学術文化の花を咲かせる取り組みに、邁進してまいります。



財団法人
大学コンソーシアム京都
理事長
八田 英二

時代に対応した新たな大学コンソーシアム京都の創造に向けて

新年明けましておめでとうございます。新たな年を迎えるにあたり、皆様方のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

さて、皆様既にご存じのとおり、大学を取り巻く環境は年々厳しさを増し、2007年度においては、4(6)年制の大学の40%弱、短期大学の60%強が定員未充足となっており、大学全入時代の到来を改めて実感せざるはおれません。京都・大阪地域の定員充足率は、東京地域に次いで高く、その他の地域に対し比較的優位性を保持していますが、今後の状況等を鑑みると、大学経営や大学の特色化を含めた教育研究の向上、質の向上・保障など、課題は山積しております。今後も各加盟大学においては、引き続き改革を行い、各大学の特色化を推進すると共に、「学位の授与・学修の評価」「教育内容・方法等」「高等学校との接続」等の明確な方針を示し、その方針に対する共通理解の下、多様で質の高い教育を実現していくかなければなりません。また大学院に関しても、大学院教育の改革を進めると同時に国際的な通用性や信頼性向上し、世界規模での競争力強化を図る必要があります。また、そのような改革を実践していくためには、その実質を担っている教職員の能力向上を図ることが必要不可欠なものと考えております。

このような状況の中で、大学コンソーシアム京都は①現代社会と新しい学問的パラダイムの構築、②大学連合体京都における新しい人づくり・まちづくりへの貢献、③大学間交流による新しい教育システム・学問・芸術の創造、④大学の社会開放と生涯学習システムの開発、の4つの基本理念のもと、1994年に設立、2008年度には京都・大学センター時代を含め15年目を迎えます。この間、激変する高等教育を取り巻く環境に対応し、個々の大学・短期大学の改革に繋がるよう「規模によるメリット」「先導性・パイロット実施」「相互補完」を理念として事業を実施し、高い評価を得てきました。また、京都を始め各地で組織されている連携組織(コンソーシアム)に対する期待は高まってきていると感じております。

2008年度は、このような状況の下、「第2ステージプラン(2004~2008年度)」の総括を行うとともに「2009年度以降の基本構想」の策定や、公益法人制度改革に伴う新たな財団組織の検討を行わなければなりません。

また、大学コンソーシアム京都が連携組織として事業を実施する意義を再確認すると共に、財団の将来像を見据えた上で、事業の積極的な選択と集中をはかり、その成果を還元することで各加盟大学・短期大学の改革の一助となるよう、以下の6点を最重点項目とし、取り組んでまいりたいと考えております。

- ① 第3ステージプランの検討および策定
- ② 単位互換事業について、短期大学や遠隔地の大学での活用の検討
- ③ より実践的なFD事業・SD事業の充実と加盟校への成果等還元の充実
とりわけ具体的なFD活動の実践とFD研究の充実
- ④ 第3ステージプランにおける「京都学生祭典」のあり方検討
- ⑤ 第3ステージプランに向けた大学コンソーシアム京都の組織体制検討
- ⑥ 京都の「学び」の全国的発信強化

今後も、大学コンソーシアム京都は「京都地域を中心、大学と地域社会及び産業界との連携、大学相互の結びつきを深める役割を担い、これらの連携による調査・研究開発、情報提供、交流促進等を行い、もって我が国の高等教育の改善、発展に寄与すること」を目的に、各事業に邁進する所存でございます。

今後も引き続き、大学コンソーシアム京都の趣旨に賛同頂くと共に、温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げる次第です。

特 集

学びの座談会

「学び」と 世代の間にあるものは?



本年度の会報の特集内容は、それぞれのジェネレーションギャップを、学びに対する考え方、捉え方で表現していきます。前々号の28号は二人の高校生に、29号では大学生にインタビューを行ない、それぞれの立場で、学びに対する価値観を語って頂きました。今号は、保護者の立場と、少し前の学生時代の記憶を辿っていただき、大学への期待も率直に語って頂きました。

インタビュアーは、前回と同じくシチズンシップ共育企画代表の川中大輔氏にお願いしています。

「学ぶ」ことはどのように変化したか?

川 中: 今日は「大人がみる学び」という視点から入っていきましょう。社会人としての経験を積まれて、学生時代と今では「学ぶ」ということはどのように変わったでしょうか。

西 出: 西出と申します。私は学生時代、自分で学費を全部出していたのですが、本当に勉強する意欲があるのかどうか、試されていたように思います。当時は、自分の目指す目標に向かって、諒く熱心に勉強していたのですが、ある日、続けることがしんどくなつて、大学に退学届を持っていったことがあります。すると教務課の方から「学びたいと思える時に勉強しないと後悔するよ。」と諭され、考え直したことがあります。その時に、大学という「学べる」環境を自分が与えてもらっていることを諒く実感しました。このことが学生時代の思い出ですね。今は、50代や60代に向かって、「種まき」の学びをしておかないといけない時期だと思っています。自分が50代になって、何かをしたい時に刈り取りが出来る状態になるための準備期間です。そのために、少しずつでも発見を蓄積していくことが、「学び」の過程のひとつかなと思っています。

磯 垣: 磯垣と申します。私が学生の頃は、学校が絶対的な存在でした。学校の先生の言わることは全て正しいと思っていました。今はその絶対的であった学校というのがやや薄れていますね。今は職場が学びの場です。

北 澤: 北澤と言います。私が20代の頃は、宝塚の舞台に立っていましたので、学ぶよりも演じる仕事をしていました。その時は「学び」と思わなかったのですが、今、インストラクションの仕事をしていて、あの時は先生から教えられた事が、非常に役に立っている実感をもっています。人に教えることの難しさも感じながら、教える中で学び、日々過ごしています。

振り返って気づく学びとは?

川 中: 北澤さんから、学生の時はそう思わなかつたけれども、今になってみれば、役に立っていたり、支えになつたりすることがあるというお話をありました。自分の中で反響する学びというものはござりますか。

西 出: 高校の時にクラブ活動の合宿に、様々な先輩方がお越しになられて、大学生活や会社での仕事の話から社会観までお話になられたのですが、自分とは違う環境にいる方と接することで学ぶことがたくさんあることに気づきました。後輩にも、そうした出会いを通じた学びを吸

収してくれたらいいなと思っています。

北 澤: 宝塚時代、稽古の時に、同じ振りを練習していても「全然違う」としか先生は言ってくださらなかつたのですね。どこが違うのか分からぬけれども、とりあえず踊り続けないといけないのですが、どれだけ鏡を見ても自分としては分からぬものでした。でも、先生は絶対に言ってくれません。人に教えてもらうより自分で気付きなさいということだったと今は思っています。今の若い方は嫌だったらすぐやめたり、諦めたりする方も多いようですが、自分が努力して勝ちえたものは必ず自信となって身についていくので、努力を惜しんでほしくないです。その努力の経験があるから、将来もっと頑張ろうと思えるはずです。大人になれば気づくのですが。

磯 垣: 私は、初めての就職の時、働く意識がありました。今は自分で働いているという意識で仕事をしています。そうすると「いい仕事をしたい」と思うようになって、職場でのコミュニケーションの重要性に気づくようになりました。

西 出: 私も働く中で様々な方と出会って、色々なことを教えていただきました。会える環境を与えてもらっていることをありがたいなと思っています。

川 中: 自分と異なるものを持っている人と関わる中で刺激を受けることで、学びが意識化されて、意欲もあがるでしょうね。また、仕事をしながらであれば、その学びをどう生かすかも考えさせられますね。



西 出さん

臆せずに出ていく中で磨かれるもの

川 中: 磯垣さんから、職場でのコミュニケーションの重要性の話をございましたが、最近の学生は、自分に欠けているものとしてコミュニケーションスキルを挙げることが多いですね。皆さんは、どのようにコミュニケーションスキルを磨いていかれましたか。

磯 垣: 色んなところに出ていき、色々な方とコミュニケーションをして、自分と相通する人をこまめに探してみてはどうでしょうか。

北澤：全然知らない人ばかりの場でも、臆せずに出ていくって、自分から声を発していくことでしょうね。自分が黙っていたら、その場では何も起きません。第一印象で苦手だと思った人でもよく話すと理解できたりすることがあります。経験を重ねていって欲しいと思います。

西出：今の学生さんは「失敗すること」を恥ずかしいと思っていますよね。私たちの学生時代よりも、今は様々な機会や出でていける場が多く与えられています。それを積極的に活用できるかは本次次第ですが、失敗してもいいから自分から飛び込んで欲しいですね。学生だから何をしても、失敗が許されるというわけではありませんが、失敗の中から身に付けたことは、社会人になって生かせるものが多いと思います。

磯垣：自分のことしか知らない、自分に与えられたことしかしない、そうではなく、自分のこと以外にもプラスしていける人は懐が深いなと思います。そうした好奇心もあれば、仕事を吸収する能力も高いでしょうね。

川中：「臆せずに出ていく」というのは大切ですね。最近、「KY(空気読めない)」という言葉が流行っていますが、空気を過剰に意識しそうで、お互いを探り合いながら臆しつつコミュニケーションをとっているようですから。

磯垣：昔はもう少し年齢を超えたタテの関係があったかなと思います。ヨコの繋がりで満足している人が多いような気がします。

川中：タテの関係の中にある学びの可能性というのはどのようなものでしょうか。

磯垣：やはり年上の方は長く生きた分だけ人生経験もあります。だからこそ、例えば困難な状況を解決する際に、その選択肢を多く提示できるでしょう。また逞しさも備えているでしょう。年上の方からお話を伺うことは、視野を広げることにもつながるでしょうね。

川中：タテの関係のコミュニケーションを通じて、ものの見方が豊かになるということですね。



磯垣さん

「知らない」ことは恥ずかしいこと

川中：生涯学習社会という言葉が使われて久しいですが、皆さんは生涯学び続けることが必要だとお感じになられますか。

北澤：私の中では、いかに森光子さんみたいに元気で美しく生きていくかが目標です。今まで子育てや家庭のことを理由にしてきましたが、これからは自分で学んでいきたいですし、資格も取っていきたいですね。

磯垣：今の自分は人生の折り返し地点にいると思っています。まだ半分くらい残っています。私は知らないことは恥ずかしいことだなと思っているのですが、まだまだ知らないことがあります。これから学び続けたいなどと思っています。

西出：私も知らなかつたことを一つでも多く身につけたいなと思っています。生活の中の身近なものや地域のことでもいいと思っています。子どもを通じても学ぶこともできますよね。世代間の変化など、日々変化していっていることを知ることができます。このように身近なところから、自分が吸収したいなと思うことから始めていくのが一番大切なと思っています。

川中：私も現在、社会人ですが、学ぶ意欲があつても、学ぶ時間はどう確保するのかということには悩まされます。どのように時間を確保すると良いでしょうか。

西出：一分でも自分で学べる時間を探し出して、「たった一分だけど、こんなことができるんじゃないかな」と考えるようにならないといけないでしょうね。

磯垣：「時間がない」と良く耳にしますが、「狭間の時間」の使い方を上手に使っていけば、時間は自分で生み出せるものでしょう。忙しい人ほど上手に時間を使っています。時間が一杯あると、ついつい明日やつらいいと先送りしてしまうと思います。忙しい人は「今」しないと次の機会がないという意識があるのでしょう。

川中：なるほど、そうですね。それでは、生涯学習の中で大学にはどのような

ことを期待されますか。

西出：大学が参加しやすい公開講座などを提供されるのは、非常に良い学びの機会です。京都はそうした学びの機会が非常に多くあることが素敵ですね。

北澤：社会人だけで受講するものではなく、大学生と一緒に学び、一緒にディスカッションすると、「あ、この人たちはこんな事考えているんだ」とお互いに気づけると思います。

川中：京都では、大学の正規科目も一緒に受講できますが、そうして「学び」を媒介にしてつながる場がもっと増えるといいなということですね。

西出：そうですね。

川中：今後、お子さんが大学に進学されることもあるかと思いますが、保護者として大学に期待することもお聞かせいただけますか。

北澤：今、大学はどこまで真剣に人を育てようとされているでしょうか。人生の中で多くの選択肢を持てるような専門性を磨いて欲しいなと思っています。

西出：本当は学生一人ひとりが将来のビジョンを自分で持ち、自分が学ぶ専門分野に対する目的意識を持って入学しないといけないのでしょうが、現在は必ずしもそういう状態ではありません。個々の先生が専門分野を教えられるのは当然ですが、学生が将来を見据えられるような成長のビジョンを大学はもう少し明確にしてほしいですし、学生一人ひとりが将来のビジョンを持つてこのような機会を一年生から増やして欲しいですね。



北澤さん

これからの夢のための学び

川中：最後に、これから学んでいきたいと思われていることを教えていただけますか。

西出：京都に住んでいることを活かして、寺院などを巡りながら、建築や美術品をはじめ、様々なものに直に触れて、そこから京都の歴史を学んでいきたいですね。そのためにも、今後に備えて少しずつ学習していきたいなと思っています。

磯垣：私は世界をずっと周りたいという夢がありますので、その夢に向かって英語を勉強したいと思っています。

北澤：将来イタリアに住みたいと思っていますので、私も英語やイタリア語を学んでいきたいですね。せっかく生きているのですから、生きてる間に出来るだけのことは学びたいと思っています。老後は主人と仲良く暮らせたら一番ですね。

川中：皆さん、好奇心旺盛ですね。私ももっと頑張らなければと非常に刺激を受けました。ありがとうございました。

今日のお話の中で私が一番興味深くお伺いしたのは、振り返って気づく学びについてです。自分も含めてですが、最近の若者は、非常に分かりやすい「役に立つ学び」を志向しがちです。しかし、学んでいる時には、すぐにその学びが「役に立つ」と言い切れなくても、自分にとって古層を成し、人生のどこかの場面で生きてくるのでしょうか。「役に立つ学び」をどう捉えるべきかを考えさせられた座談会でした。



川中 大輔 (シチズンシップ共育企画代表)

1980年生まれ。法政大学卒業。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科修士課程修了。野外教育や不登校児童支援に取り組むNPO法人ブレーンヒューマニティー副理事長、社会事業家支援に取り組むIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]フェロー、(財)大学コンソーシアム京都研究主幹などを経て、(財)大学コンソーシアム京都リエゾンオフィスアドバイザー。「学ぶこと」と「社会にかかわること」の両方のおもしろさがわかる「学びのデザイン」に関心を寄せている。2001年から全国各地でNPOマネジメント研修や市民教育ワークショップ、教育ファシリテーター育成を担当。大阪経済大学大学院兼任講師、大阪成蹊大学芸術学部非常勤講師ほか。

第5回頑張ってます!京都の大学・短期大学

第2弾

新たな改革へチャレンジ!

総合コミュニケーション

つながっている安心

適度な距離感を保った総合コミュニケーション

前号に引き続いて、大学コンソーシアム京都の加盟大学・短期大学の、改組、名称変更を行なう大学・短期大学をピックアップいたしました。

2008年度に学部、学科を新しく設置する大学・短期大学、

改組、名称変更を行なう大学・短期大学をピックアップいたしました。

今回、6大学を取り上げてご紹介いたします。

既存の魅力ある学部・学科等は、

各大学・短期大学のホームページか窓口にお尋ねください。



大谷大学

歴史学科が新しくスタート

学科 歴史学科 新設

コース 歴史ミュージアムコース 新設

交流アジアコース 新設

日本史コース 新設

東洋史コース 新設

「日本史コース」・「東洋史コース」に加え、もの・文化財を通して豊かな歴史像の構築を学ぶ「歴史ミュージアムコース」。ひと・もの・こころの「交流」をキーワードに広く新しい視点でアジア史を展望する「交流アジアコース」を開設。12,000点もの文化財を収蔵する大学博物館を利用し、文化財調査や展示などの実習を重視していきます。

歴史ミュージアムコース

例えば、古地図や絵図に書き込まれた情報から、歴史景観を復元していく!

京都の町並みを描いた現存最古の刊行地図は「都記」(1624年頃)。江戸時代の京都図には、市街地の拡大や洛中洛外の名所旧跡が記され、その景観の変化に京都の歴史が読み取れます。

交流アジアコース

例えば、さまざまな知識が伝播した「文明の道」をたどり、現代的な意味を再発見していく!

インド・中国・朝鮮半島・日本の間には、古くより文明伝播の道があり、仏教をはじめ多様な知識が伝わっています。そこを舞台に、ひと・もの・こころの「交流」から、さまざまなドラマを生み出しました。これらに関する記録を読み、今日的な意味を考えます。

日本史コース

古代史から近現代史に至る全時代について、史・資料に基づき、文化史・思想史・宗教史など幅広い方法をもちいて歴史の理解を深めていきます。

東洋史コース

多種多様な文明を育んだ中国を中心に東アジア全土を、史・資料に基づき、広い視点で把握し、現代に至る道のりを考えていきます。



種智院大学

学部 人文学部 [名称変更]
(2008年4月学部名称変更予定)

学科 仏教学科
社会福祉学科

学部名称の変更

大学の教育・研究内容を表現する学部名称が「仏教学部」であることから社会福祉学科が十分に認知されない状況にありました。本学の淵源は、弘法大師空海の創設した『綜藝種智院』にさかのぼります。校名にある「綜藝」とは、あらゆる学問という意味です。現代的に言えばリベラルアーツに相当します。その様な歴史を踏まえ、2008年4月から学部名称「仏教学部」から、より包括的な学問分野を表現する「人文学部」(Faculty of Humanities & Social Sciences)という名称に変更します。

社会福祉学科の取得資格が増えます

社会福祉学科では、平成20年4月から社会福祉士国家試験受験資格、任用資格に加えて、精神保健福祉士国家試験受験資格、ケアラーク技能認定試験受験資格、障害者スポーツ指導員初級の資格を取得できるようになります。

また、その他、保育士国家試験受験資格、ホームヘルパー2級などの資格取得に向けたバックアップも行っています。

長期履修学生制度

社会人を対象に長期履修学生の受け入れを2004年度からスタートしました。これまで、仕事に従事しながら大学で学ぼうとすれば、夜間学部、通信教育学部などで学ぶことが一般的でした。長期履修学生とは職業や家事に従事する人が、個人の事情に応じて柔軟に修業年限を超えて通常の課程を履修することができます。通常の4年のカリキュラムを、在学年数を5年～10年の間（編入は3年～6年）で自由に決めることができます。これなら生活スタイルに合わせた柔軟な履修が可能です。授業料は履修する科目の単位数によって決まります。

社会福祉学科

社会福祉学科で取得できる資格が平成20年度からボリュームアップします。

仏教学科

- 博物館学芸員
- 任用資格の種類
 - ・社会教育主事
 - ・社会福祉主事
 - ・身体障害者福祉司
 - ・知的障害者福祉司
- 中学校教諭一種免許（公民・宗教）
- 高等学校教諭一種免許（公民・宗教）
- 介護福祉士*
- その他の資格取得をサポート
 - ・ホームヘルパー2級
 - ・保育士資格取得

*介護福祉士は卒業後1年課程の介護福祉士養成施設で、所定科目の履修が必要です。



京都教育大学

連合参加大学：京都産業大学、京都女子大学、同志社大学、同志社女子大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学

研究科 連合教職実践研究科教職実践専攻【専門職学位課程】新設
授業力高度化コース
生徒指導力高度化コース
学校経営力高度化コース

2008年4月に開設する連合教職実践研究科は、専門職大学院の新たな制度として位置づけられた、教員養成に特化した「教職大学院」です。教職大学院は、①実践的な指導力を備えた新人教員の養成、②現職教員を対象にスクールリーダー（中核の中堅教員）の養成を行います。

京都教育大学と教職課程をもつつの私立大学（京都産業大学、京都女子大学、同志社大学、同志社女子大学、佛教大学、立命館大学、龍谷大学）、京都府・京都市教育委員会、小・中・高等学校長会は、「連合教職大学院構想」の構築に向け、大学院連合システムや臨床型授業の開発について検討を行い、その成果に基づき、京都教育大学を基幹大学とした連合教職実践研究科を設置します。

本研究科教職実践専攻では、授業改善をリードする教員を養成する「授業力高度化コース」、深く子どもを理解する教員を養成する「生徒指導力高度化コース」、信頼される学校作りを担う教員を養成する「学校経営力高度化コース」の3コースを設け、共通科目、コース必修科目、教職専門実習では、研究者教員と実務家教員が協働して授業を展開します。

「授業力高度化コース」、「生徒指導力高度化コース」では、学部段階で教員としての基礎的な資質能力を身につけた学部学生について、さらに授業力や生徒指導力などの実践的指導力を備え、新しい学校作りの有力な一員となり得る新人教員を養成します。

また、「学校経営力高度化コース」では、現職教員を対象として、高い授業力や生徒指導力を有し、地域や学校における指導的役割を果たす教員、及び高い学校経営力を備えた学校管理職をめざし、確かな指導理論と優れた実践力・応用力を備えたスクールリーダーを養成します。



教育課程の構造

授業力高度化コース 生徒指導力高度化コース 学校経営力高度化コース

コース発展選択科目
コースの専門分野における深い学識と高い実践力を育成する専門科目

コース発展選択科目
3科目6単位

コース発展選択科目
3科目6単位

コース発展選択科目
3科目6単位

コース必修科目
各コースが目標とする資質能力を育成する上で、コアとなる専門科目

コース必修科目
5科目10単位

コース必修科目
5科目10単位

コース必修科目
5科目10単位

共通科目 I 教育課程の編成・実施に関する領域 2科目4単位
共通科目 II 教科等の実践的な指導方法に関する領域 2科目4単位
共通科目 III 生徒指導・教育相談に関する領域 2科目4単位
共通科目 IV 学級経営・学校経営に関する領域 2科目4単位

共通科目 I 教育課程の編成・実施に関する領域 2科目4単位
共通科目 II 教科等の実践的な指導方法に関する領域 2科目4単位
共通科目 III 生徒指導・教育相談に関する領域 2科目4単位
共通科目 IV 学級経営・学校経営に関する領域 2科目4単位

共通科目 V 学級経営・学校経営に関する領域 2科目4単位

教職専門実習
学校での実務的経験を通して、教職の実際にについて総合的に理解を深め、実践的指導力を高める実習科目

教職専門実習 2科目10単位
※教職経験に応じて履修のみなし規定あり

計46単位を修得

※コース必修科目、共通科目のフィールドワークと教職専門実習は連携協力校[京都府下(宇治市、城陽市)、京都市内の小学校6校、中学校3校]において実施します。

京都ノートルダム女子大学

気品ある教養豊かな女性を目指して—「ノートルダム学Ⅰ・Ⅱ」

平成20年度からスタートする「ノートルダム学」は、気品ある教養豊かな女性となることを目指して、日々の生活に密着した実体験を通して学ぶ、新しい科目です。

1年生が充実した大学生活を送ることができるよう、本学の建学の精神「徳と知」を知り、自分の生活の中にどう取り入れるかを学ぶのが「ノートルダム学Ⅰ」。単に知識を得るだけではなく、メイクや服装、しぐさ、暮らし方などに表れる上品な美しさについて実践的に学び、茶道・華道やパーティーの体験をする中で、もてなしの心やマナー、コミュニケーションの取り方を学びながら、ノートルダムの精神を体得していきます。実際に教会を訪問したり、クリスマスなどキリスト教の行事に親しんだりできるのも、この科目の特長です。

そして4年生の「ノートルダム学Ⅱ」では、自分がそれまでに学んできたさまざまのこと振り返り、今を生きる一人の自立した女性として、堂々と社会に出て行くための姿勢を身につけます。大学名の「ノートルダム(Notre Dame)」とは「聖母マリア」を意味する言葉。「ノートルダム学」は、聖母マリアをお手本とする誇高い女性を育成するプログラムです。



学部 人間文化学部

学科 英語英文学科

ANAエアラインプログラム 新設

英語英文学科では、平成20年4月から、ANA(全日本空輸)の調査研究機関「ANA総合研究所」と提携し、「ANAエアラインプログラム」を実施します。

ANAグループよりCA(キャビンアテンダント)経験者が本学の専任教員として派遣され、全日空の研修プログラムを参考にエアラインプログラムの講義を担当します。現場の実情をよく知るCA経験者の講義を受講することで、真に求められるホスピタリティ(もてなし)を身につけることができます。「ホスピタリティ論」や「エアライン・サービス論」などの講義やインターンシップを設け、4年間を通じて、客室乗務員に必要とされる接客について基礎から実務まで学んでいきます。業種・業界に照準を合わせることで、より実用的で充実したものになります。

また、全日空のホスピタリティ教育は必ずしも客室乗務員希望者対象だけではなく、地上職など航空業界全体、ホテルを含む観光関連業務、サービス業、マスコミなどあらゆる業種で活躍する道が開けます。

開講科目一覧	
講義	ホスピタリティ論 I・II エアライン・ビジネス論 エアライン・サービス論 旅行観光業研究 ホテルビジネス研究 ホスピタリティ・スキル フィールド研究
ゼミ	接遇のための英語 接遇のための日本語 接遇のためのコミュニケーション ビジネスマナー演習
演習・実習	キャリアデベロップメント エアラインインターンシップ エアライン研修
インターンシップ	公開講座・プログラム等 (要卒外) 体験インターンシップ エアライン・ホスピタリティ講座

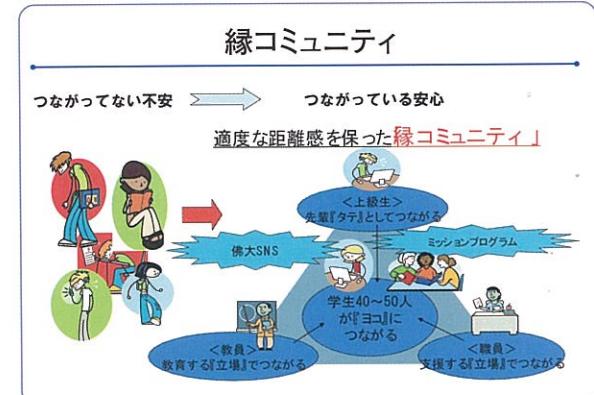
佛教大学

えにし 「縁」コミュニティによる離脱者ゼロ計画 ～適度な距離感を保った学生の共同体作りと就学支援セーフティネットの構築～

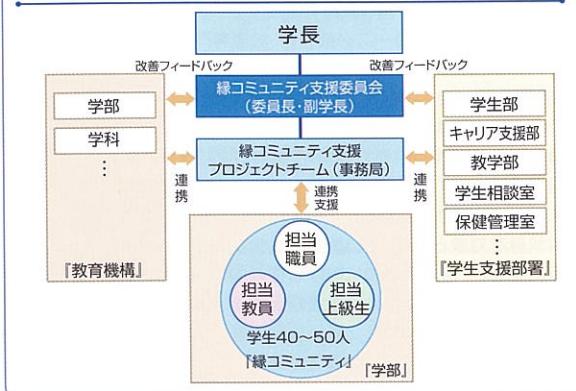
入学者全員の卒業を目指す「離脱者ゼロ」プログラムであり、その仕組みとして、学生・教員・職員が「縁コミュニティ」という共同体を通して係わり、学生が「つながっていない不安」から「つながっている安心」を自覚し、相互支援することにより孤立化の防止と新たな挑戦を促し、セーフティネットとして機能することが目的である。この「縁コミュニティ」は、顔と顔を合わせるリアルな場を基本に現代学生のニーズをも汲み取りSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を活用し、多重的な関係づくりの場を提供しているのが特徴である。また、「縁コミュニティ」は人間関係づくりの場としてだけ存在するのではなく、コミュニティに方向を与えるプログラムが織り込まれている。これは「ミッションプログラム」と呼ばれ、早い時期から学生に佛教大学で学ぶ意義や使命を伝え、社会人として活躍できるような人間力の獲得も目指している。学年の進行とともに学生は自立と挑戦の態度が養われ、次に続く系統的なカリキュラム(フィールドワーク・インターンシップ・ボランティア活動など)へと連動していく。加えて、発展的に卒業生も巻き込んだ学びの共同体はキャリア形成や知の拠点として佛教大学の社会的責任を果たすと共にひろく社会に貢献していくことが狙いである。

学長挨拶

私たち佛教大学はその名の示すとおり仏教を建学の精神としている大学です。このたび本学の目指している学生支援が、今までの地道な実践と「縁コミュニティによる離脱者ゼロ計画」という新しいプログラムの独自性や工夫、さらに特段の効果が期待されるものとして評価をいただき、「新たな社会的ニーズに対応した学生支援GP」に採択されました。「縁」とは人ととのつながりのことあります。私達は1人で生きているのではありません。人のつながりの中で「生かされ」「生かせる」という共生の姿で生きているのです。佛教では因縁を教えています。「因」は「私」、つまり個としての自分、「縁」は「私とつながっているもの」を意味します。実は「因と縁」の全体が社会に生きる私なのです。したがって因が変われば縁が変わり、縁が変われば因が変わることです。人ととのつながりの中で共に育ててゆく小さな社会が縁なのです。縁の中で「励まし合い」、「支え合い」ながら人間力につける教育を目指してまいります。



「縁」実施体制



学部 経営学部 新カリキュラム・新コース

学科 経営学科 新カリキュラム・新コース

「経済社会の変化に対応できる能力の養成、社会から信頼される経営人・企業人の育成」を目標に、2008年度からカリキュラムを一新します。実践派学生を育てる「経営コース」と、公認会計士・税理士・企業の財務担当者に照準を定めた「会計コース」の2コースに改編しました。学生の皆さん、卒業後の進路を想定してコースを選択することができます。経営コースでは、企業経営に関する基礎的な学修、企業経営の現場に出向いて課題を探求するプログラム科目、理論学習、これらを通じて学んだことを演習論文にまとめ、体系的な知識を修得します。この他にも、京都を代表する企業の経営者が企業経営について語る講義も設置しています。

一方の会計コースでは、卒業に必要な単位の約3分の2を会計学や経営学の勉強に充てられることが大きな特徴です。また、経営学部では少人数のゼミ教育を重視しています。4年間一貫したゼミ教育を通じて、学生一人ひとりの目標達成を最大限にサポートしていきます。

あらゆる組織を担う中核的な人になろう

経営コース

- 将来、企業・団体に就職し、役員、管理職として組織全体を運営したい人には
 - ▶ 組織をリードするモデル
- 将来、企業で経営戦略を考えたい、新商品を開発したい、モノが売れるしくみを考えたい、ベンチャー企業を立ち上げたい人には
 - ▶ 市場と情報を活用するモデル
- 将来、国内でのビジネスだけでなく、グローバルに活躍したいという人には
 - ▶ 世界へ羽ばたくモデル

公認会計士、税理士、企業の財務担当者になろう

会計コース

- 卒業に必要な単位の約3分の2を会計学や経営学の勉強に充て、公認会計士、税理士、企業の財務担当者を目指します。

学部 法学部 新カリキュラム・新コース

学科 法律学科・政治学科 新カリキュラム・新コース

2008年度から新たなカリキュラムがスタートします。その特徴は、法律学科と政治学科の壁を越えた柔軟なカリキュラムを策定し、基礎学力を養いながら系統的な履修を誘導するというコンセプトのもとで、新たに導入されるコース制です。司法コースなどの4つのコースと、7つのサブコースを設けて、きめ細かな教育を展開します。また、法学部では、学生の皆さんが共に学びあいながら成長できる「学びの共同体」を創出することをめざしています。その鍵となるのが少人数のゼミ教育です。1年次生の基礎演習では、主体的な学修スタイルの修得を図るとともに、先輩が学習面や生活面のアドバイスを行うクラスサポート体制を取り入れています。2年次から始まる専門演習では、学生・教員の活発なコミュニケーションにより、個々の理解を深めながら、プレゼンテーション能力等の向上を図ります。その他にも、各種討論会やインターンシップを取り入れるなど、「自ら考え、積極的に学ぶ力」の養成に重点をおいた多彩な教育を展開していきます。

法律学科	自分の進路に合わせてコースを選択	司法コース	六法科の基礎を少人数でしっかりと学ぶ
		法律総合コース	現代社会と法(サブコース) 公法・国際法を中心学ぶ
政治学科	公共政策コース	学修のポイントを自分で選べる3つのサブコース	市民生活と法(サブコース) 民事法・商事法を中心学ぶ
	政治コース	行政・公法(サブコース) 法と政治の両面から社会にアプローチ 地域公共人材(サブコース) 現代の地域公共政策を担う人材の育成	犯罪・刑罰と法(サブコース) 刑法を中心学ぶ
日本政治(サブコース)	現代日本の政治にアプローチ	国際政治(サブコース)	最先端の国際政治にアプローチ

後援イベント

頑張ってます、京都の学生!!

京都文化博覧会

KYOTO CULTURAL EXPOSITION

京都文化博覧会とは、日本文化の中心京都に在住する学生が1から企画、運営をした文化イベントであり、日本文化の良さを発信していくことを目的としたものです。その主な対象者は、京都在住の外国人留学生や日本人自身であり、「もったいない」精神や調和、アレンジ…等の『日本の心』という抽象的な視点から日本文化を紹介しています。それによって単にガイドブックに載っている内容だけでなく、より深く、独創性に富んだ観点から提示し、来場者一人ひとりの心の中で『日本の心』について考え、日本文化について興味を持って頂く一つの機会を担うものです。

11月3日の当日には1万4千人以上が来場しました。午前11時から午後8時半までの様々な企画の中のメイントピックは『和の語り部コンテスト』であり、京都の大学生が日本の伝統芸能である剣道、狂言、日舞、雅楽のプロへのインタビューなどを通じてそれぞれの中にある『日本の心』を発掘し、当日はプロによる伝統芸能の実演とともに英語で発表しました。

今後は月一回程度の文化サロンを企画し、我々自身が様々な伝統芸能や文化に触れ、その従事者と語らい、学生同士も議論をしていくことでそれぞれの『日本の心』を見直していく、それらをもとに年一回の京都文化博覧会につなげていきたい。



かく しゅうじつ
郭 秋実
京都大学経営学部2回生
京都文化博覧会実行委員会
企画部長兼任



『法然・親鸞が生んだ京の歴史文化』に特別参加！

東本願寺御影堂修復現場を見聞する フィールドワーク



木場先生、延澤さんと受講生

本日は、大谷大学の木場教授と受講生20名が参加する東本願寺御影堂修復現場を見聞する京カレッジ特別コースのフィールドワークに同行させていただきました。

この京カレッジの特別コースでは、浄土教の思想的

な継承を基盤としつつ、師弟関係にあった法然と親鸞の教団が生み出した文化について、フィールドワークを交えながら理解を深めるもので、大谷大学・華頂短期大学が共同で講座を開設しました。

今回、世界最大級の木造建築である東本願寺の御影堂の修復現場を訪ね、壮大なスケールと匠の技を堪能いたします。

100年に一度の大修復

東本願寺はこれまで4回の災禍に会い、その度毎に熱心な門徒らによって修復、再建を繰り返してきました。その御影堂（明治28年再建）も再建後約100年が経過し、大屋根の葺き替え・様々な老朽箇所の修理と大掛かりな修復を行うことになりました。

その100年に1度の歴史的な時期に立ち会いその工事現場の奥深く、普段入れない場所の見学を、受講生皆さんに同行しながら体験してきました。

では早速、受講生の皆さんと一緒に御影堂の修復現場をご案内いたしましょう。

今回、修復現場をご案内して頂いたのは、大谷大学の木場教授と真宗大谷派宗務所宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌本部事務室真宗本廟両堂等御修復事務所の延澤 栄賢さんです。



真宗本廟（御影堂門）

御影堂門

まず、最初にご案内頂いたのは、御影堂門（明治44年再建）です。御影堂門は、京都三大門のひとつで、他には知恩院、南禅寺の三門があります。この御影堂門の上層階に安置している釈迦三尊像を拝顔してまいりました。

真っ暗なお部屋の真中に安置されている釈迦三尊像に、入り口からの光線があり、妖しく金色に輝いている様子を、受講者は神妙な面持ちで見えています。



釈迦三尊像を見入る受講生

御影堂

続いて、修復中の真宗大谷派東本願寺御影堂（明治28年再建）の修復現場を拝見させて頂きました。

まず、御影堂の大きさですが、堂を立方体に見立てると正面の長さ76m、奥行きの長さが58メートル、高さ38メートルの世界最大級の木造建築物です。この建物を修復するため、それ以上の大きな建物（正面90m、奥行き80m、高さ51m）の素屋根が覆っています。

外観は工場の建物という感じですが、この素屋根の中に入ると途轍もない大きな木造の建築物が入っているのに圧倒されます。

また、その修復の規模も圧倒される量で、瓦が17万5千枚（総量1717トン、種類65種）が使用されています。通常民家の瓦(26cm四方)とは全く大きさが違い、2倍の50cm程度もあります。1枚がそんな大きさの瓦を全て屋根から下ろして、更に新しい瓦を乗せかえる。その作業を、1枚ずつ再利用が可能かどうかの判断をしながら積み下ろしを行なう。途方もない作業を行なっていることに改めて感動します。



工場のような素屋根



素屋根の中の御影堂の大屋根



軒丸瓦



大棟獅子口（鬼瓦）の仮設置



屋根瓦の尾根の直線

本堂



釈迦三尊像



屋根を見上げる受講生

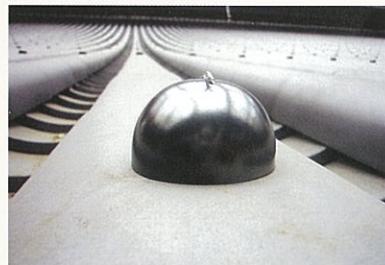
修復が終わった瓦屋根では、整然と一列に真直ぐに並んだ瓦の尾根が、余りにも綺麗で、受講生一同が大屋根を見上げ、しばらく見っていました。明治の匠も、平成の匠も天晴れ!という感じがいたします。

また、平成の匠の技では、瓦止めの鉢を素焼きの瓦に穴を開けて留めるために、現場で瓦に穴を開けます。一つ間違えば、その瓦も、その下の台座の瓦も割れるため、地道な作業ながら職人の技が要求されているようです。

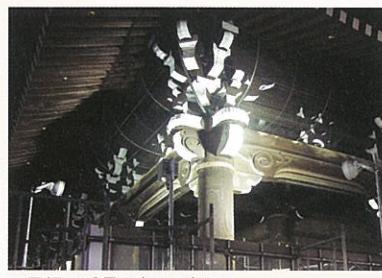
職人の技といえば、柱、軒下の木組みの巧みさも、マジック(トリック)のような、何かに騙されているかのような気分になります。どのように組み合わされているのか?「凄い」という感嘆の声がたまらず出てしまいます。

他には、明治時代の修復状況を表す写真がパネル展示されています。クレーンも車もなかった時代、桟橋に大勢の人々が集まり、大柱や棟の木材を毛綱¹や麻ロープで堂内に引っ張りあげる風景に、思わず力が入る1枚の写真でした。

このような献身的な門徒の願いにより、東本願寺の修復が叶えられたことを現す一コマの写真が雄弁に当時を物語っているようでした。



瓦の留め具

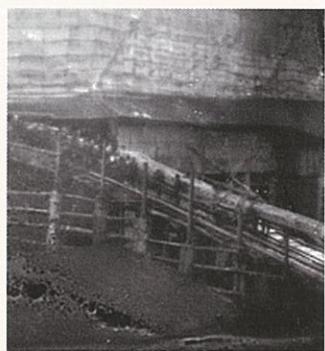


瓦屋根の重量を支える木組み

最後に、今回特別に本堂の修復現場を見学することができました。さすがに本格的な工事なので、広間には足場が組まれて、工事機材や資材がいっぱいです。本堂という雰囲気はありません。その広間の奥にある、内陣²の正面左奥の部屋に案内されました。そこには、襖絵や戸板に書かれた絵画が、そのままの状態で設置されています。

この後、修復のため撤去する説明を受け、しばらくの間、受講者と一緒に、一枚一枚ゆっくり見ながら、鶴や鴨などの鳥類が、金銀の艶やかな色に混じって鮮明に生き生きと描かれている様子を堪能しました。また風通しの戸板にも独特の色使いの絵画が描かれていました。

これで、見学会は終了となりましたが、100年に1度の修復は、見学を終えた後も余韻が残るほど迫力があった修復現場でした。



明治時代の修復の様子

◆ 見学を終えて

今回、木場教授、延澤様、受講者の皆様と同行の機会を頂けたことに、お礼申し上げるとともに、生涯に一度見られるかどうかの歴史的な時間に立ち会えたことは、大きな財産になりました。

このように京カレッジの特別コースでは、様々なプログラムをご用意しています。歴史的な場所へのフィールドワークや、現代のコミュニティ・ビジネス入門、京都の地域づくりや人づくりの取組など、今だからこそ貴重な体験が出来るコースを京都の大学・短期大学が連携しながら提供しています。

是非一度、京カレッジの様々な科目に目を通して、ご参加ください。

*1 毛綱とは、女性信徒らが髪を切って編んだ細綱をよりあわせ、太く強じんな綱にしたのが毛綱で、再建に向けた動きが始まるとともに北陸門徒などを中心に全国から寄進されたようです。その数大小53本。長いものは110メートルのものもあったようです。

*2 本堂奥に位置し、浄土の世界を現す場所を内陣、その外側を外陣(出仕僧侶が読經する場所)と呼びます。



襖絵の見学風景



御影堂門から東山方面



雨水タンクと仮屋根図

今回は、京都学術共同研究機構において財団委託の研究2件及び公募による採択した研究4件の内、ひとつの共同研究プロジェクトの活動状況をご紹介します。

■ 2006年度の採択「共同研究プロジェクト」

研究テーマ

「移動体メディアへの仏教関連コンテンツの配信に関する学際的・学融合的研究」

プロジェクトリーダー：松川

研究員：宮下

研究員：平澤

研究員：川田

リサーチアシスタント：寺岡

節（大谷大学文学部准教授）

晴輝（大谷大学文学部教授）

泰文（大谷大学文学部非常勤講師）

隆雄（同志社女子大学学芸学部准教授）

茂樹（大谷大学大学院博士課程2年）

このプロジェクトは、正しい仏教の基礎知識を多くの人々に配信していくのに効果的な仏教関連コンテンツと情報メディアを、学際的かつ学融合的視点から研究することを目的に、2001年から大谷大学で開講されたモバイルコンピューティング演習での成果を引き継ぐ形で始まりました。演習の成果である小型情報端末と無線通信技術を利用したシステムはコンテンツ配信の基盤となりました。このシステムを更に発展させるために、様々な対象にIDを割り当てデジタル情報と結びつけるRFID（例：ICカード）や、遍在するコンピュータで人の生活を支援するユビキタス技術（例：ナビゲーション、センサーネットワーク）といった近年注目されている要素技術を導入しています。その上で利用できるコンテンツを制作して実証実験を行いました。ICカードを利用した仏事（葬儀・法要など）の行い方・作法（念珠、焼香、仏壇の莊嚴）などが学べるコンテンツや、屋内で利用可能なセンサーネットワークを利用したナビゲーション・音声ガイドを制作し、実証実験を実施して、



三国祖師影



展示品音声ガイドの概要 (特別展「法隆寺一切経と聖徳太子信仰」)



①本尊に向かい拝礼

ICカードを利用した学習コンテンツ

(仏壇の莊嚴と焼香の作法)



企画の立案やコンテンツの制作に取り組む学生達

日本教育工学会でその成果を発表しました。第22回全国大会(2006年)では「プレゼンス情報とポッドキャスティングを利用した仏事ナビゲーションシステムの検討」として、また第23回全国大会(2007年)では「博物館で利用可能なIndoor Navigationシステムの検討」として発表を行いました。

また大谷大学博物館で開催された2007年特別展「法隆寺一切経と聖徳太子信仰」における取り組みとしては、展示内容のヴァーチャル・ミュージアム化、展示場のプラズマディスプレイ用コンテンツの制作や音声ガイドシステムの導入を行いました。会場ではアンケートを設置し、システムの有効性を検討するためのデータを収集しました。今後の取り組みに向けて、この特別展で収集したアンケート結果については詳細な分析を行い、これらの研究活動に反映させていく所存です。



特別展「法隆寺一切経と聖徳太子信仰」に導入した音声ガイドシステム

2008年度京都学術共同研究機構共同研究プロジェクト応募受付中

趣旨

本財団は、「大学のまち・京都」としての価値を反映させ、「世界に誇る学術文化都市・京都」の創造のため、2005年3月京都学術共同研究機構を立ち上げました。これにより、新たな京都の創造・創生を期する共同研究プロジェクトの推進を図り、遂行するための研究を募集します。

募集期間

2007年12月1日(土)～2008年1月31日(木)(必着)
*受付は郵送のみ

応募資格

- (1) 研究代表者が加盟大学・短期大学に所属する教職員(専任・非常勤を問わず)であり、研究者の専攻する学問分野が複数にまたがる学際的な共同研究グループであること。(大学院生は研究代表者の資格を有しない。)
- (2) 上記(1)の共同研究グループの研究者が、2つ以上の加盟大学・短期大学の教職員(専任・非常勤を問わず)または大学院生で構成されていること。
- (3) 大学院生をリサーチアシスタントとして、1名以上を共同研究グループの一員とすること。

応募手続き

所定の申請書に必要事項を記入のうえ原本1部、複写2部を本財団 京都学術共同研究機構 事務局(〒600-8216 京都市下京区西洞院通塙小路下るキャンパスプラザ京都)にご送付ください。(持参受付は不可)

なお、申請書は財団ホームページ(<http://www.consortium.or.jp>)からダウンロードできます。

選考方法

本財団の京都学術共同研究機構 研究開発委員会において選考し、決定します。選考結果については代表申請者宛に文書で通知します。なお、採択された研究プロジェクトについてはホームページ上で発表します。

選考結果発表

2008年2月28日(木)



第三回政策系大学・大学院研究交流大会

京都から発信する都市政策

2007年12月9日(日)、キャンパスプラザ京都にて、第三回政策系大学・大学院研究交流大会「京都から発信する都市政策」が開催されました。

政策系大学・大学院のみならず多数の大学・大学院の学部生・院生から「都市政策」に関する研究成果の発表および活発な意見交換がなされました。当日は、学部生・院生・教職員等632名の参加があり、パネル発表、口頭発表および学生実行委員会企画による講演会(講師:慶應義塾大学大学院法学研究科教授 片山善博氏)、表彰式、懇親会と進み、盛況のうちに幕を閉じました。



第三回政策系大学・大学院研究交流大会
「京都から発信する都市政策」
学生実行委員会委員長
大熊 涼介
(同志社大学政策学部4回生)



本年度の第三回政策系大学・大学院研究交流大会は、みなさまのご協力のもと盛大に開催することができました。厚く御礼申し上げます。

今大会では、政策系大学・大学院の学生に加え、多くの大学・大学院の学生、自治体関係者、市民の方々にご参加いただきました。来年度の大会では、こうした輪がさらに大きな物になっていってくれれば、と思います。

PROJECT REPORT

事業報告

教育事業部

TOPICS

インターンシップ事業

(文部科学省「平成17年度 特色ある大学教育支援プログラム」採択)

本財団は1998年度に産官学地域が協同でつくる新たな人材育成プログラムとしてインターンシップをスタートさせ、今年で10周年の節目を迎えました。そこで10周年を祝い、プログラムのますますの発展を祈り、受け入れ先、大学・短期大学のご担当者、コーディネーターなどをお招きしてインターンシップ・プログラム10周年記念シンポジウムとパーティーを開催しました。

◆インターンシップ・プログラム10周年記念シンポジウム・パーティー

【日 時】12月5日(水) 16:00~20:00

【場 所】リーガロイヤルホテル京都

【第一部】シンポジウム(参加者 139名)

①シンポジウム

[進行]岡本博公先生(総合コーディネーター)

[パネリスト]東映株式会社京都撮影所 高橋 剑氏(受入れ担当者)
森田 大児氏(修了生)
株式会社京都バーブルサンガ 貝瀬 剛氏(受入れ担当者)
徳田 謙三氏(修了生)

京都文教大学キャリアサポート課係長 押領司哲也

②2007年度インターンシップ実習の包括的報告

加藤 良直主幹

③インターンシップ研究会における今後のインターンシップの展望

河村 能夫先生(総合コーディネーター)

【第二部】パーティー(参加者 137名)



共同研究事業

「京都学」「21世紀学」「都市政策」の3分野において共同研究推進、研究資源の公募、研究成果の発表、研究支援事務体制の構築、若手研究者の育成などをしています。また、地域社会や市民への知の還元・情報発信を行う目的で「プラザカレッジ講座」の開講や「京都アカデミア叢書」発行など様々な取り組みを行っています。

◆プラザカレッジ都市政策特別講座「地域資源を活用した観光政策」

観光を切り口に京都市およびその周辺地域の観光政策の今後の方向性や課題について考えていく講座を開講しました。受講者数は延べ273名。

第1回 9月 8日(土) 「京都の観光振興における現状と問題点」
村田 純一氏(村田機械株式会社 代表取締役会長)

第2回 9月22日(土) 「琵琶湖の地域資源を活かした観光政策—学び、体験する観光へ—」
嘉田 由紀子氏(滋賀県知事)

第3回 9月29日(土) 「京都市の観光政策の今後—地域資源の活用と地域連携—」
【コーディネーター】真山 達志氏(同志社大学政策学部教授)
【鼎談者】閑根 英爾氏(京都新聞論説委員)

木下 嘉美氏
(近畿日本ツーリスト株式会社本社営業推進部自治体振興部長)
上田 誠氏(京都市産業観光局観光部観光振興課長)

◆プラザカレッジ京都学講座「全国プロジェクト in 名古屋」

桃山文化の双壁をなす二条城と名古屋城の絵画・茶室・工芸の真髄に触れる講座を、京都市、京都府、名古屋市の後援のもと、名古屋市内の会場にて開講しました(第3回は都合により中止)。受講者数は97名。

第1回 10月21日(日) 「狩野派の障壁画」

狩野 博幸氏(同志社大学教授)

第2回 10月27日(土) 「桃山の華と侘び—御殿と茶室」

日向 進氏(京都工艺纤维大学教授)

第3回 11月25日(日) 「工芸一飾金具の爛熟」
久保 智康氏(京都国立博物館工芸室長)

◆プラザカレッジ21世紀学講座「絆」

人と人の繋がり、心と心の結びつきについて、人の一生であるライフステージの中で絆を考えしていく講座を開講しました。受講者数は延べ236名。

【場 所】キャンパスプラザ京都

【開講日】2007年10月28日(日)~12月16日(日) 全8回開講

第1回 10月28日(日) 誕生 母と子の絆は、地球を救う

佐藤 香代氏(福岡県立大学看護学部教授)

第2回 11月 4日(日) 幼年期 「つながり」を育む喜び — 家族が共有する記憶 —

梶井 祥子氏(北海道武蔵女子短期大学准教授)

第3回 11月11日(日) 就学期 いじめ問題を通して、子どもたちの人間としての絆を考える

原 清治氏(佛教大学教育学部教授)

第4回 11月18日(日) 青年期 青年期における同一化形成と関係性

溝上 慎一氏(京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)

第5回 11月25日(日) 成人前期 WEDDING NOW — 時代と共に変わる結婚式 —

渡部 隆夫氏(ワタベウェディング株代表取締役社長)

第6回 12月 2日(日) (中年期) 絆と豊かな人生

細見 吉郎氏(京都廣告協会理事長)

第7回 12月 9日(日) 老年期 “老い”という人の完熟を考える

樋口 和彦氏(京都文教大学学長)

第8回 12月16日(日) 臨終期 絆 — 死にゆく力、看取る力

浜本 京子氏(日本バプテスト病院 牧師・チャプレン)

高等教育研究推進事業部

TOPICS

高等教育研究推進事業

◆第5回SDフォーラム

【テーマ】大学運営における

リーダーシップと大学改革

【日 時】10月14日(日) 10:00~17:30

【場 所】キャンパスプラザ京都

【講 演】川本 八郎氏(学校法人立命館 相談役)

【参加人数】265名



◆分科会◆

【分科会A】テーマ:「入試改革と事務職員の役割」

報告者:道前 博氏(関西大学 入試事務局長)

【分科会B】テーマ:「大学経営を睨んだ就職支援戦略」

報告者:西田 義則氏(京都産業大学 進路センター事務部長)

【分科会C】テーマ:「大学広報におけるプランディング戦略—大学改革と戦略的広報活動—」

報告者:齊藤 一誠氏(明治学院大学 広報室長)

【分科会D】テーマ:「中小規模大学のリーダーシップと大学改革」

報告者:芝田 正子氏(京都橘大学 事務局長)

【分科会E】テーマ:「大学のアイデンティティーと大学改革」

報告者:松井 正子氏(日本女子大学 総務部長)

【分科会F】テーマ:「法人化のインパクト～一人一人が変われば組織が変わる～」

報告者:後藤 博明氏(国際大学法人 神戸大学 企画部長代理)

リエゾン・共同研究事業部

TOPICS

リエゾン事業

◆公共政策フォーラム2007 in 京都

「公共政策フォーラム2007 in 京都」実行委員会との共催事業として、学生による政策コンペ、シンポジウムなどを開催しました。政策コンペでは、24の学生グループから熱のこもった発表が行われ、両日とも200名を超える参加がありました。

【日 時】9月3日(月)・4日(火)

【場 所】京都大学百周年時計台記念館
国際交流ホールほか



◆2007全国異業種交流・新連携フォーラム in 京都

企業・団体・大学の出会いの場を創出し、異業種交流や産学連携の取組を促進することを目的とする本事業について、本財団からもブース出展を行いました。

【日 時】10月19日(金) 10:00~20:00

【場 所】国立京都国際会館イベントホール

◆職員のための大学セミナー

【テーマ】「大学職員として知っておきたい事!!」

【場 所】龍谷大学深草学舎21号館601教室

【参加人数】308名

第1回	11月 9日(金)	テーマ:「大学という組織、組織論の立場から」 18:20~19:50 講 師:田尾 雅夫氏(京都大学 公共政策大学院 教授)
第2回	11月16日(金)	テーマ:「少子化時代の大学経営」 18:20~19:50 講 師:山本 誠司氏 (株)三菱総合研究所 科学技術政策グループ グループリーダー
第3回	11月30日(金)	テーマ:「日本の高等教育が直面する課題 一体験からみた日本の高等教育ー」 講 師:潮木 守一氏(桜美林大学 大学院 国際学研究科 招聘教授)
第4回	12月 7日(金)	テーマ:「大学【国際化】の戦略と実践:実務者の立場から」 18:20~19:50 講 師:吉尾 啓介氏(文部科学省 大臣官房 國際課長)
第5回	12月14日(金)	テーマ:「大学の改善に資する評価とは」 18:20~19:50 講 師:前田 早苗氏(千葉大学普通教育センター教授)

◆第2回FDセミナー

【テーマ】FDの義務化とその周辺へ大学設置基準の改正について考える~

【日 時】12月8日(土) 13:30~16:30

【場 所】龍谷大学深草学舎21号館601教室

【講 演】川嶋太津夫氏(神戸大学 大学教育推進機構教授)

【報告者】河原地英武氏(京都産業大学 教育エクセレンス支援センター副センター長、教授)

高橋 伸一氏(京都精華大学 教務部長、教授)

原 真一氏(同志社大学 教育開発センター事務室 教育企画係長)

【司 会】松下 佳代氏(京都大学 高等教育研究開発推進センター教授)

【参加人数】142名

◆京都の歴史と文化にふれる二条城見学会

【日 時】12月12(水)、13(木)、14日(金) 12:30~17:00

【対象者】留学生と近々留学する日本人学生

【参加人数】49名

学生交流事業部

TOPICS

■学生交流事業

◆第5回京都学生祭典

1日目は京都駅ビルで「音楽」をメインテーマに、全国学生音楽コンテスト「Kyoto Student Music Award」の開催、ジャズやアカペラの演奏や様々なパフォーマンスの披露を実施しました。新風館では、京都学生祭典の新たな象徴となるオリジナル創作みこし「京炎みこし」も登場し、「京炎みこし」の初披露、初担ぎを行ないました。

2日目は「おどり」をメインテーマに、平安神宮・岡崎周辺でノンジャンルのおどりコンテスト「京炎 そでふれ! 全国おどりコンテスト」の開催、食べて、遊べる縁日など、すべての世代の方々に楽しんでいただける企画を多数実施しました。

また第5回京都学生祭典では、「楽しくエコ!」を合言葉に、祭りを通じて、楽しく環境問題に関心を持っていただけるよう、リユース食器を導入しゴミの削減などエコ活動に取り組みました。

Grand Finaleでは、京都学生祭典オリジナル創作おどり「京炎 そでふれ!」を来場者、出演者と一緒に6,000人の総おどりで平安神宮境内を熱気で包みました。2日間で、延べ215,500人のお客様にご来場いただきました。

【主 催】京都学生祭典実行委員会

【日時・場所】10月6日(土) 京都駅ビル 13:00~18:00

新 風 館 12:00~16:00

10月7日(日) 平安神宮・岡崎周辺 11:00~21:00

【来場者数】京都駅ビル 28,000人

新 風 館 4,500人

平安神宮・岡崎周辺 183,000人



◆芸術系大学作品展2007(ART UNIV.2007)

今年度で第8回目を迎えた京都の芸術系10大学の合同作品展をキャンパスプラザ京都と、今年は新たに木屋町にある元立誠小学校を会場に加え開催しました。元立誠小学校では、空間を生かした立体作品や、校舎を作品の一部として取入れた作品など、キャンバスプラザ京都では出品が難しかった作品も数多く出品されました。作品数は両会場合わせて117点の出品があり、京都で芸術を学ぶ学生の創作活動を身近に感じて頂く機会になり、多くの方にご来場いただきました。

【日 時】①11月13日(火) ~ 11月25日(日) 9:00~21:00
②11月13日(火) ~ 11月25日(日) 12:00~19:00

【場 所】①キャンバスプラザ京都 1階 情報交流プラザ

②元立誠小学校

【参加大学】池坊短期大学、京都嵯峨芸術大学、京都工芸繊維大学、京都教育大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部、京都市立芸術大学、京都精華大学、京都造形芸術大学、大阪成蹊大学芸術学部、成安造形大学

【主 催】財団法人大学コンソーシアム京都 芸術系大学作品展実行委員会

【共 催】立誠・文化のまちプロジェクト運営委員会

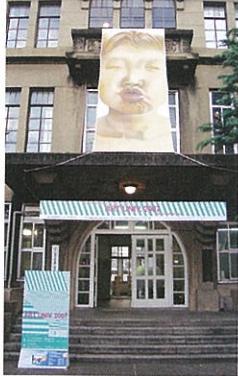
【後 援】京都市

【協 賛】株式会社フラットエージェンシー

【来場者数】①キャンバスプラザ京都 : 2,087名

②元立誠小学校 : 1,686名

合計 3,773名



◆第10回京都国際学生映画祭

京都を中心とする関西の学生が企画運営する国内最大規模の学生映画祭、「第10回京都国際学生映画祭」を開催しました。今年度は10周年記念事業として過年度よりも充実したプログラム内容で国内外の学生が制作した映画・映像作品を上映し、多くの方にご来場いただきました。また、映画監督やプロデューサーといった映画業界の第一線で活躍する方々を招き実施した徹底討論では、学生監督・観客も参加し、世界と日本の映画制作の比較や映画業界の現状について語り合うよい機会となりました。

【日 時】11月23日(祝)~30日(金)

【場 所】ART COMPLEX1928、京都シネマ

■コンペティションプログラム

・作品応募総数:16カ国 227本(国内:124本、海外:103本)

・入選作品:12本(国内:6本、海外:6本)

・最終審査員:荻上直子(映画監督)・森田良成(プロデューサー)・渡辺あや(脚本家)

・表彰:グランプリ(1本)『少年と町』(小林達夫/日本)

準グランプリ(2本)『蒲公英の姉』(坂元友介/日本)

『兄、行則の日記より』(佐藤文郎/日本)

■ワールドプログラム

・ドイツ「ベスト オブ ジャパンーズ 学生ショート」、「ベスト オブ ヨーロピアン 学生ショート」

・中国「閑・愛:新世代の思考—中国学生映画の最前線」

・マレーシア「美しきマレーシア」

■招待作品プログラム

・東京藝術大学大学院映像研究科第一期生修了作品

■連携企画

・京都シネマとの連携:河野文昭と内藤謙一の演奏による『滝の白糸』上映会

・関西日仏学館との連携:フランス学生映画祭

——京都学生アートオークション——

昨年度から芸術系大学作品展の関連企画として、京都の芸術系大学に通う学生が作品を通して社会・美術市場に触ることで、「芸術家」としてのキャリアプランの導入部分を経験し、今後の進路形成の一助とすることを目的として実施しており、連続講座と実際のオークションを通してアートマーケットの仕組みを学びます。2007年度は下記のとおり開催いたします。

■プレビュー(展示)・オークション

【日 時】2008年2月12日(火)~2月17日(日)

プレビュー ... 9:00~21:00 [2月12日(火)~16日(土)]

... 9:00~14:00 [2月17日(日)]

オークション... 15:00~18:00 [2月17日(日)]

【場 所】キャンバスプラザ京都 1階 情報交流プラザ

(オークション会場:キャンバスプラザ京都 2階ホール)

※連続講座については終了致しました。



Information

近日開催予定の行事・イベント

詳しくは、財団法人 大学コンソーシアム京都 (<http://www.consortium.or.jp>) を参照してください。

「第13回FDフォーラム」開催のご案内

開催日	2008年3月8日(土)~9日(日)
会場	立命館大学 衣笠キャンパス
主催	財団法人大学コンソーシアム京都
テーマ	「大学教育と社会」—FD義務化を控えて—

後援 文部科学省、京都府、京都市

◆基調講演

【講師】寺崎 昌男 立教大学 大学教育開発・支援センター顧問
東京大学・桜美林大学名誉教授、大学教育学会会長

【開催概要】

学士課程・大学院を含めて、カリキュラムのあり方、授業法の改善、アドミッション・システムと卒業判定のあり方等が、あらためて問われている。この問い合わせの中心には、学士学位授与に値する水準を大学はどのように保障できるかという課題が据えられ、加えて、少子化・全入のもとで予想される現実問題に大学はどのように対応しうるのかという問い合わせも加わっている。しかも答申等には、対応の最終責任はすべて各大学に帰するという論理が通底しているように思われる。

厳しい状況と鋭い問い合わせの上で、広い意味における大学の教育力の総体が問題となるのは当然である。その力を支える大きな要因が、教職員の意欲と見識と能力にかかっていることも疑うこととはできない。

基調講演では、高等教育・大学に関する政策分析の上で、下のような論点について問題を提起したい。

- 1) 「大学の大学たる根拠」をどう考えるか。
- 2) 國際化と生涯学習化のものにおける教養教育と専門教育・資格教育の関連
- 3) 「義務化」されているFD・SDの課題と具体像

◆シンポジウム

【シンポジスト】中村 正 学校法人立命館 常務理事<教学担当>
飯吉 弘子 大阪市立大学 大学教育研究センター専任研究员 準教授
滝 紀子 河合塾 教育研究開発本部教育研究部長
【コーディネーター】河原地英武 京都産業大学教授、
教育エクセレンス支援センター副センター長、
第13回FDフォーラム企画検討委員会副委員長

【開催概要】

21世紀に入って社会の変化は、その多様性と複雑化の度合いを益々強めている。大学教育におけるFD活動の推進も、そのような変化と決して無縁ではなく、大学教育と現代社会の関係はどうあるべきかをここで改めて問い合わせみたい。一口に社会といっても、「国際社会」、「知識情報化社会」、「企業社会」、「地域社会」、「高齢化社会」など様々な側面がある。こうした多様な社会のニーズに対し、大学教育はどう応えていくことができるのか、また、大学教育の側も社会に対し何を求めているのか—この双方向的な視点から、大学教育と社会に関する報告と意見交換を行っていきたい。

申込期間 2008年1月9日(水)~2月10日(日)

申込方法

お申し込みは、後掲URLの「参加申込フォーム」をご利用願います。2月末に、事務局より「参加証」をお送りいたしますので、当日必ず持参願います。参加費につきましては当日会場にて徴収(領収書発行)させていただきます。

<http://www.consortium.or.jp/consortium/fd/fdindex.html>

※当日の参加申し込みは、会場の混み具合によって受付をお断りする場合があります。
※立命館大学には駐車できません。また、周辺にも駐車場はほとんどありませんので、公共交通機関をご利用頂き、ご来場願います。

参加費

参加費区分	情報交換会含む	情報交換会除く
(財)大学コンソーシアム京都 加盟大学・短期大学教職員	5,000円	3,000円
(財)大学コンソーシアム京都 加盟大学・短期大学学生	1,000円	無料
(財)大学コンソーシアム京都 非加盟大学・短期大学教職員・一般	7,000円	5,000円
(財)大学コンソーシアム京都 非加盟大学・短期大学学生	2,000円	1,000円

Campus Scene

聖母女学院短期大学



聖母女学院短期大学は、“学生一人ひとりがVIP”的精神のもと、資格取得など実践教育はもちろん、こころを育む人間教育を、短期大学ならではの少人数で実施しています。表紙は、正門近くの格調高い古典様式の赤レンガづくりの建物と、明るく、元気に闊歩している学生の躍動感が、絶妙に調和しているキャンパス風景です。

また、赤レンガの建物は、学生の巣立ちを暖かく見守ってきたかのように、聖母女学院の歴史を今に伝えています。

ミニ・シンポジウム プログラム 各定員 200名

第1ミニ・シンポジウム

「FD組織化への挑戦と課題」

【シンポジスト】山田 剛史(島根大学教育開発センター講師)／小田 隆治(山形大学高等教育研究企画センター教授)／沖 裕貴(立命館大学大学教育開発センター教授)

【指定討論者】田中 每実(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)／センター長)

【コーディネーター】大塚 雄作(京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

第2ミニ・シンポジウム

「大学の授業は社会の声に応えることができるのか? —学生と教員の声」

【シンポジスト】松浦 善満(和歌山大学教育学部教授・附属小学校長)／原 清治(佛教大学教育学部教授・通信教育部長)／木野 茂(立命館大学 大学教育開発・支援センター教授、第13回FDフォーラム企画検討委員会委員長)

【情報提供者／協力者】立命館大学・佛教大学 学生有志

【コーディネーター】松本 真治(佛教大学文部科学系准教授)

第3ミニ・シンポジウム

「地域社会の中の大学」

【シンポジスト】筒井 のり子(龍谷大学社会学部教授)／奈良 英久(立命館大学共通教務課ボランティアセンター職員)／渡辺 雄人(同志社大学大学院総合政策科学研究科ソーシャル・インベーション研究コース博士前期課程2年次)

【コーディネーター】河村 能夫(龍谷大学経済学部教授、教学部長)

第4分科会

「短期大学の可能性を拓く」

【報告者】中野 正明(華頂短期大学学長)／美濃 順亮(京都光華女子大学短期大学部教授)／竹内 康弘(京都女子大学短期大学部 法事室室長)

【コーディネーター】今井 薫(京都産業大学法務研究科教授)

第5分科会

「『学び』の心と初年次教育」

【報告者】四ツ谷 昌二(龍谷大学理工学部教授 理工学部長)／青木 克比古(金沢工業大学工学基礎教育センター次長 教授)／沖花 彰(京都教育大学教授)／北岡 崇(福山女学院大学国際コミュニケーション学部教授)

【コーディネーター】巻本 彰一(京都教育大学准教授)

第6分科会

「教養教育と 第二(初修)外国語教育」

【報告者】畠 公也(神戸薬科大学薬学部准教授)／福島 祥行(大阪市立大学大院文学研究科フランス言語文化教室准教授)／松尾 剛(立命館大学法学部准教授)

【コーディネーター】秋澤 雅男(京都薬科大学一般教育准教授)

第7分科会

「FD義務化時代の教員研修のあり方」

【報告者】金剛 理恵(立命館大学大学教育開発・支援センター職員)／佐藤 浩章(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長／准教授)

【コーディネーター】浅若 裕彦(大阪大学文学部准教授)

第8分科会

「授業支援の新しいあり方～大学としての授業支援の組織・体制作り～」

【報告者】神藤 貴昭(徳島大学大学開放実践センター准教授)／水越 敏行(関西大学特別顧問(授業支援)、大阪大学名誉教授)／渡田 哲也(法政大学文学部准教授)／岩崎 千晶(関西大学大学院総合情報学研究科博士後期課程3年次)

【指定討論者】村上 正行(京都外国语大学マルチメディア教育研究センター准教授)

【コーディネーター】國安 俊彦(京都外国语大学・短期大学専任講師)

第9分科会

「大学における総合的な学生支援と学生相談体制」

【報告者】齋藤 憲司(東京工業大学保健管理センター准教授)／市来 真彦(神奈川工科大学メンタルヘルスアドバイザー)／山中 淑江(立教大学学生相談所カウンセラー)

【コーディネーター】桐野 由美子(京都ノートルダム女子大学生活福祉文化部教授)